

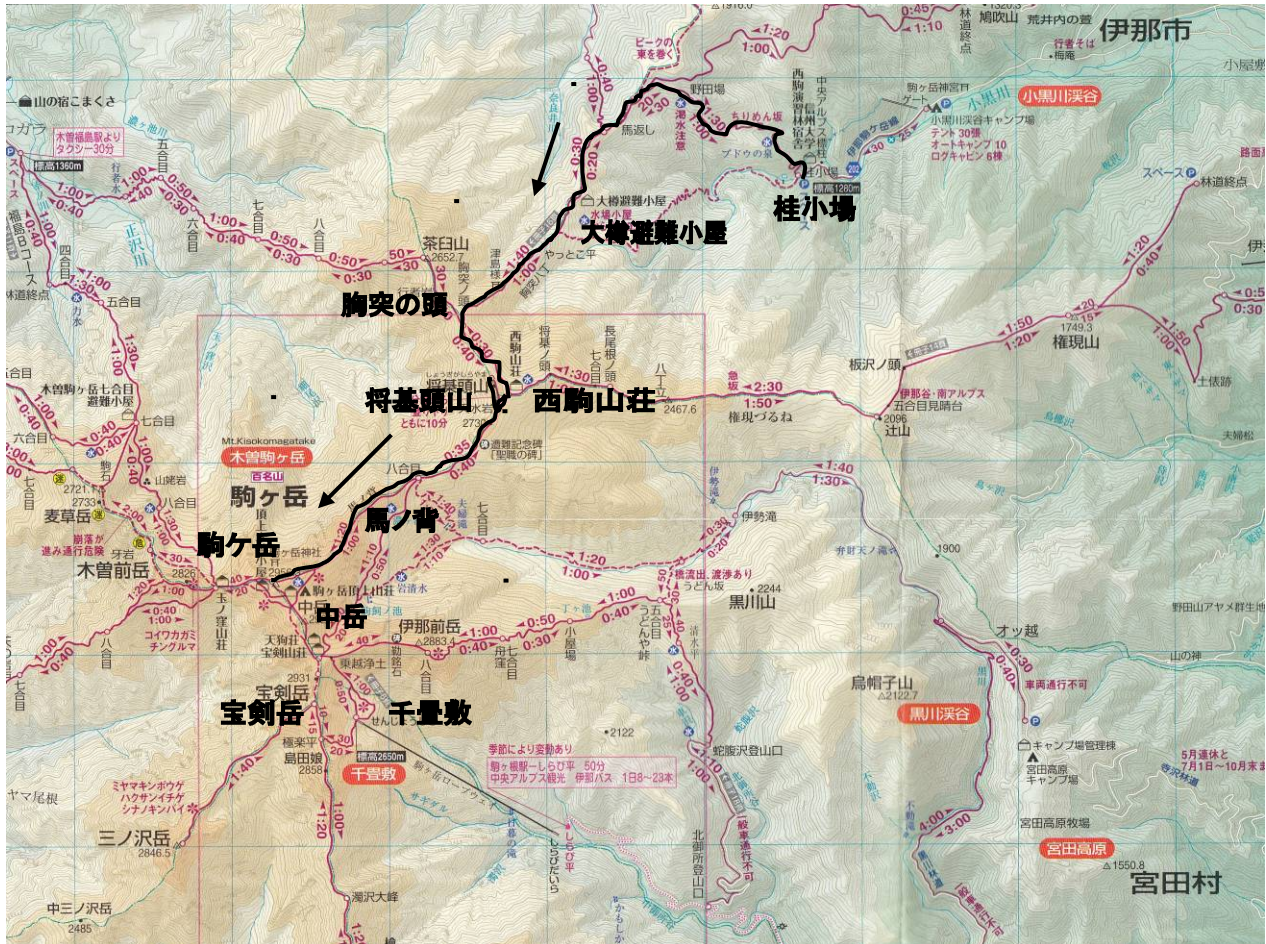


2010.10.02~03 木曾駒ヶ岳山行報告書

担当: M0 荒川 晶

①参加メンバー(敬称略・計5名)

M4: 大橋 M3: 仙田、山澤 M2: 石出 M0: 荒川



②行程(上図参照 ※拡大して見ていただけるとわかり易いです)

1日目: 桂小場(11:00)→(13:00)大樽避難小屋(13:30)→(15:20)胸突の頭(15:40)→(16:15)西駒山荘(16:45)→将基頭山(17:00)→西駒山荘(17:15)

2日目: 西駒山荘(04:30)→八合目分岐点→(06:50)駒ヶ岳山頂(07:00)→宝剣山荘(07:40)→宝剣岳(08:00)→宝剣山荘(08:20)→千畳敷(09:10)

③山行報告書

<1日目>

6時半に新宿に集合後、6:50の駒ヶ根行きのバスまで伊那市まで乗車。土曜の朝とあって若干の渋滞に引っかかるも、定刻より20分ほど遅れて10:20頃に伊那市に到着します。そこでタクシーに乗換、桂木場の登山口まで移動しました。

登山口には既に何台もの県外ナンバーの車が駐車してありました。(右写真)

ここで荷物の調整などしつつ一息ついたところで、石出さんを先頭に出発。

地図を見ていただけるとお分かりかと思いますが、この日のスタート地点の桂木場の標高は1280m、目的地となる西駒山荘の標高は2600m近くと、1日で1000m以上を登るハードな行程です。

途中ブドウの泉や、野田場と呼ばれる水場などで少々休息を入れたりしながら、尾根筋までのぼり、2時間ほどで大樽避難小屋に到着しました。ここで昼食をかねて休憩します。

小屋内は比較的清潔に保たれており、附近に水場もあるので、場合によっては一泊することも出来そうです。(右写真)



昼食も取って体力を回復した後で再度出発。低い笹原と、広葉樹林の広がる中を歩いていきます。(左写真)

ここから胸突の頭までは、胸突八丁と呼ばれる急坂が続く区間でしたが、メンバー全員とも体力があり、安定したペースで登ることが出来ました。途中やっとこ平と呼ばれる場所や、津島神社などがあり、そこからペースを計算したりしつつ、さらに2時間ほどかけて、胸突八丁を抜けて胸突の頭に到着しました。

この附近まで来ると周辺の木々も次第に色づいてきて、紅葉を楽しむことが出来ました。(右写真) 一方で、天気予報では天気は次第に下り坂ということで、この附近からは次第にガスが目につくようになり、また標高も **2500m** 近くまで登ってきたために次第に寒さも感じられるようになってき



らしいものでした。(左写真)



ました。

20分ほど休憩した後出発。ここまで登ると後は比較的平坦な道を進むので、メンバー全員の足取りも軽くなってきました。

時折雲も晴れ、これから目指す将基頭山の山容も登山道から眺めることもできました。雲の切れ目からにせよ、アルプスの木々の紅葉はやはりすば

尾根筋に出たこともあり、次第に西からの横風が強く吹き付けるようになります。植生も風下となる東側は広葉樹林が中心ですが、尾根附近になると、強い風に耐えることの出来る這い松ばかりが目につくようになりました。

登山道は尾根の西側、東側を何度も往復するようにつけられているので、風を受けている時と受けていない時とで大分歩きやすさや体感温度が違うことを実感します。

そして1時間弱で今日の行程を終了。西駒山荘に到着しました。この場所にはテント場はないので、今日は小屋泊です。(右写真)

受付を済ませた時に、山荘の方から将基頭山に登ってみることを勧められたので、足の調子を心配していた石出さんを除き4人で散歩がてら登ってみることに。



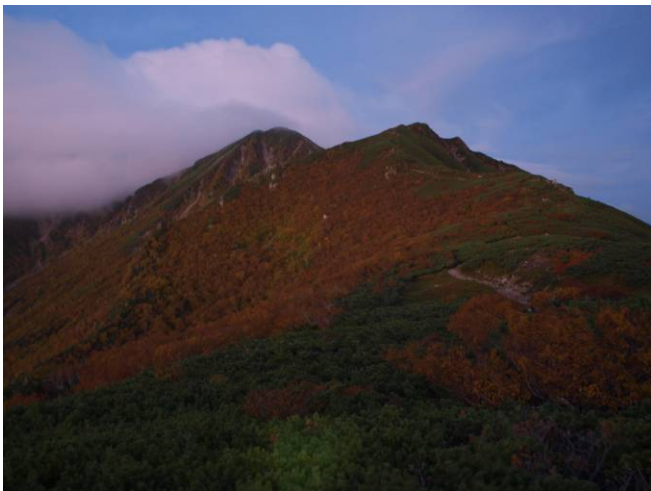
這い松の広がる道を歩くこと 15 分ほどの行程で、山頂に到着。(右写真)

行くときはガスのためよく見えなかったのですが、山頂から見ると山荘は目の前でしたが、植生保護のため、現在は直接行くルートは閉鎖されているようです。

その後は炊飯及び食事。毎回ご飯の炊き方には苦労しますが、今回は大橋さんのお陰で、無事に焦げ付くことも芯が残ることもなく炊けました。

夕食後は、山荘の方がこの附近での殉難記念碑の設立のきっかけとなった遭難事故のビデオを見せていただきました。

そして、明日の日程の確認などをした後、8時半ごろに就寝。



日の出前はまだ天候も安定していたので、明るくなるにつれ、目の前に目的地の木曽駒ヶ岳がその山容をあらわにしてきました。紅葉はやはり素晴らしいものでした。(上写真)

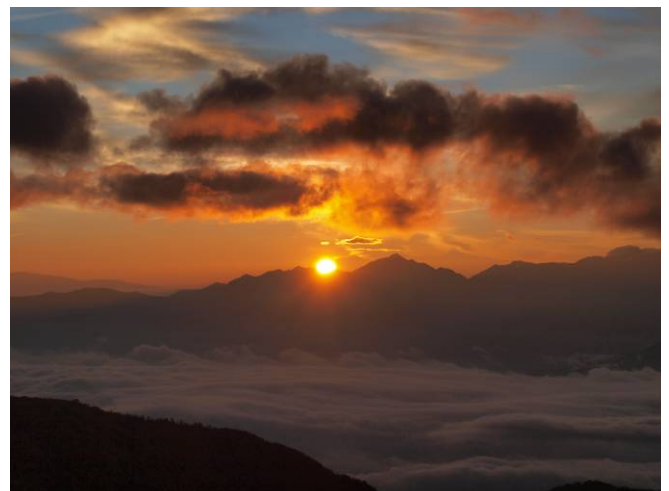
日の出は 5:45 頃、雨が近いこともあり綺麗な朝焼けの後に漸く、といった感じでした。(右写真)

この頃から少しずつ風が出てきて、正面に見えた木曽駒ヶ岳も次第に流れるようなヴェール状の雲に姿を隠されてしまいます。

<2日目>

朝 3 時ごろに起床し、その後パスタ中心の朝食を食べた後で 4 時半頃に出発。まだ外は真っ暗でしたが、雲が多かったためか、予想したほどは寒くもなく、また風も穏やかだったのには助けられました。

それでも暗い中での山行は足元に昼間以上に注意を払わねばならなかったり、ルートを見失いやすかったり、と色々な難点があることを実感させられました。



8合目での分岐を過ぎた後は次第にガスが出始め、昨日と同じような強風が横から吹きつける中を歩く形になりました。(右写真)

その後馬の背と呼ばれる区域に入ります。若干岩場が多くなり、勾配も少し急になります。

この辺りから早朝に駒ヶ岳の頂上山荘を出発し、山を降りてくるパーティーと時折すれ違うようになります。



そして暗い中から歩き始めてから2時間半弱、漸く木曾駒ヶ岳の頂上に到着しました。

ガスが酷く、眺望も殆どきかない状態だったので、記念写真を簡単に撮影して、直ぐに出発することに。(左写真)

ここからは専ら下り中心の行程になります。出発後は駒ヶ岳頂上山荘、中岳、天狗荘などを通りなが

ら40分ほどで宝剣山荘に到着。

ここに一旦荷物を置き、軽装備で宝剣岳まで往復します。始めのうちは平坦な登山道ですが、進むにつれ次第に道は険しくなりこのような岩場を鎖などを使いつつ登っていくことになります。(右写真)

20分ほどで山頂に到着。他のパーティーもいたので簡単に記念撮影した後直ぐに下山し、再び宝剣山荘に戻ってきました。

最初の予定では、ここから清水平を経由して北御所登山口へと下山する予定だったのですが、天気の悪化が予想されたので、このまま千畳敷へと下山し、ロープウェイを用いてしらび平まで一気に下る予定に変更



することになりました。

この附近からは、千畳敷までは一般の観光客も簡単にアクセスできることもあり、次第に軽装備のレジャー客の姿が増えるようになります。微妙な形に整備されていて、却って歩きにくくなってしまった道を1時間ほど下りて、千畳敷に到着。これにて今回の行程は終了となります。(右写真)

千畳敷でしばし休息をとった後、ロープウェイとバスを使い駒ヶ根駅へ。天候が心配される中での山行でしたが、予定より早めのバスで、雨にも降られることなく、全員が無事に新宿に戻ってくることが出来ました。

